

音楽科学習指導案

日 時 平成21年9月29日(5校時)
生 徒 奥州市立江刺第一中学校 2年4組
男子19名 女子17名 計36名
指導者 菊池 和裕

- 1 題材名「郷土の伝統音楽のよさを聴こう ～お囃子いっぱい～」
教 材「日高囃子」「神田囃子」「祇園囃子」

2 指導内容

本題材は鑑賞の指導事項ア「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」及びウ「我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。」から設定する。

また、共通事項ア「音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。」のうち、以下の点について焦点化を図って設定する。

- 音色、速度、旋律について、それぞれの要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。

3 題材の目標

- (1) お囃子の音色、速度、旋律から、それぞれの特徴やお囃子の多様性に関心をもち、意欲的に聴く。
- (2) お囃子の音色、速度、旋律から、それぞれの特徴やお囃子の多様性を感じ取る。
- (3) お囃子の音色、速度、旋律から、それぞれの特徴やお囃子の多様性を理解して、そのよさや美しさを批評文として人に伝える。

4 題材について

本題材は、郷土の伝統音楽のお囃子について、音楽を形づくっている音色、速度、旋律と、それら要素同士の関連を知覚し、音楽の特徴をとらえた上で、それらの働きによって生み出される特質や雰囲気を感じ受することを指導内容とする。また、各地域の郷土の伝統音楽を取り扱うことで、地域の暮らしとともに音楽文化があり、それぞれに特徴をもった様々な音楽が存在していることを知ることで、音楽の多様性を理解することを指導内容とする。それぞれの地域のお囃子における各要素の働きと、その特質や雰囲気と比較聴取することで、知覚・感受をより一層深める。また、我々の生活する身近な郷土の伝統音楽である「日高囃子」を取り上げることで、音楽に対する思い入れや愛着心などの自己の価値観をより一層確かなものにできると考える。そして、学習の最後に、感じ取った音楽のよさや美しさが、自分にとってどのような価値があるのかということ、客観的な理由をもとにして言葉で表現し、他者に伝えることで、価値観をさらに広げ、音楽文化の豊かさを知り、いずれのお囃子も誇りをもって伝承されてきた素晴らしいものであることに気づかせたい。

生徒は1学年において、雅楽「越天楽」の鑑賞を通して楽器の音色の違いを感じ取ることと、歴史背景との関わりについても学習した。また「魔王」の鑑賞を通して、登場人物に合わせた音色の変化を聴き取る学習を行ってきた。さらに、「春」の鑑賞においては、音色やリズム、旋律の違いからソネットを聴き分ける学習を行い、いくつかの要素を知覚し、特質や雰囲気を感じ受し、それを生かしながら表現や鑑賞を行うことが身に付いてきている。しかし、感受した特質や雰囲気と醸し出している要素、それに対する自己の価値を関連づけながら適切な言葉を選んで表現する能力はまだ身に付いていない。

そのため、指導にあたっては、知覚、感受、自己の価値の3つを関連づけながら、適切な言葉を用いて批評できる能力を身につけさせるための手立てとして、スモールステップの指導、グループ学習、感じシートを取り入れる。スモールステップの指導では、それぞれのお囃子で、気づかせたい要素を一つずつ取り上げて比較聴取させ、それぞれの要素をしっかりと確認し、理解させたい。グループ学習では、思いや感じ取ったことを伝え合う場を設定することで、自分の価値観を認識し、色々な感じ方や考え方があることに気づき、音楽に対する感性を深めさせていきたい。また、感じシートの活用により、表現するための言葉のモデルを提示することで、自ら感じたイメージを表す語彙や音楽的な語彙の獲得を促したい。

具体的な指導の流れとしては、まず、3曲の比較聴取により、音色、速度、旋律について知覚・感受を行う。グループで交流することでより一層深めさせる。次に、3曲それぞれの地域を予想し、よさを整理し、言葉の使い方や選び方を確認させ、紹介文へと結びつける。要素が生み出す働きや特質・雰囲気を、歴史的・地域的な背景や地域に根ざした気質と関わらせることで音楽の多様性を感じ取らせるような指導をしていきたい。

5 題材の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受や表現の工夫	観点4 鑑賞の能力
題材の評価規準	お囃子の音色、速度、旋律から、それぞれの特徴やお囃子の多様性に関心を持ち、意欲的に聴こうとしている。	お囃子の音色、速度、旋律から、それぞれの特徴やお囃子の多様性を感じ取っている。	お囃子の音色、速度、旋律から、それぞれの特徴やお囃子の多様性を理解して、そのよさや美しさを批評文として人に伝えている。
学習活動の評価規準	①お囃子の音色、速度から、それぞれの特徴に関心を持ち、意欲的に聴こうとしている。 ②お囃子の旋律の特徴やお囃子の多様性に関心を持ち、意欲的に聴こうとしている。	①お囃子の音色、速度から、それぞれの特徴を感じ取っている。 ②お囃子の旋律の特徴やお囃子の多様性を感じ取っている。	①お囃子の音色、速度、旋律の特徴やお囃子の多様性を理解して、そのよさや美しさを批評文として人に伝えている。

6 指導と評価の計画

時	学習活動	具体的評価規準との関連	評価方法等
1時間目	・3曲の比較聴取から、楽器の音色の違いを、音色において感受した内容をもとに速度の違いを知覚・感受する。	観点1-① 観点2-①	・学習シート、生徒の発言内容
2時間目	・3曲の比較聴取から、旋律について知覚感受する。	観点1-② 観点2-②	・学習シート、生徒の発言内容
本時	・学習した内容をもとに、3曲のうちいずれか1曲についての批評文を記入する。	観点4-①	・批評文

7 指導と評価の展開

(1) 本時の目標

- ・お囃子の旋律の特徴やお囃子の多様性に関心を持ち、意欲的に聴く。
- ・お囃子の旋律の特徴やお囃子の多様性を感じ取る。
- ・お囃子の音色、速度、旋律から、それぞれの要素の特徴やお囃子の多様性を理解して、そのよさや美しさを批評文として人に伝える。

(2) 本時の具体的評価規準と生徒の学習状況

具体的評価規準	生徒の学習状況	
	B おおむね満足できる	A 十分に満足できる
【観点1-②】 お囃子の旋律の特徴や、要素同士の関連と曲想との関わり及びお囃子の多様性に関心を持ち、意欲的に聴こうとしている。	学習シート②-3において、自分の考えを記述したり発表したりしている。	学習シート②-3において、自分の考えを詳しくまとめ、記述したり発表したりしている。
【観点2-②】 お囃子の旋律の特徴や、要素同士の関連と曲想との関わり及びお囃子の多様性を感じ取っている。	学習シート②-3において、いずれかのお囃子の「旋律の特徴」と「感じ」について関連づけた記述をしている。 学習シート②-4において、いずれか1曲のお囃子の「音色」「速度」「旋律」のうち1つから、お囃子のよさを整理している。	学習シート②-3において、2つ以上のお囃子の「旋律の特徴」と「感じ」について関連づけた記述をしている。 学習シート②-4において、いずれか1曲のお囃子の「音色」「速度」「旋律」の2つ以上から、お囃子のよさを整理している。

	<p>〈②－3の記述例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お囃子C」は短くていくつかの同じ音を使ったのパターンを繰り返し、落ち着く感じがする。 <p>〈②－4の記述例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お囃子A」の三味線の音色、が落ち着いて上品な感じを醸し出していてよいと感じる。 	<p>〈②－3の記述例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お囃子A」は使われている音の高低の幅があまりなく、ゆったりした感じがする。「お囃子B」は使われている音の高低が広く、元気な感じがする。 <p>〈②－4の記述例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お囃子B」は速いテンポ、複雑で変化のある旋律で華やかで活気がありよいと感じる。
<p>【観点4－①】</p> <p>音色、速度、旋律から、お囃子の特徴や多様性を理解しながら曲想を感じ取り、そのよさや美しさを批評文として人に伝えている。</p>	<p>いずれか1曲のお囃子について、音色、速度、旋律のうち、2つの要素について、知覚したこと、感受したこと、自己の価値をもとに批評文を記述している。</p>	<p>いずれか1曲のお囃子について、音色、速度、旋律の全ての要素について、知覚したこと、感受したこと、自己の価値を関連づけながら批評文を記述している。</p>

(3) 努力を要する生徒(C)への支援や手立て

【観点1－②】	教師とのやりとりやグループでの話し合いの中で自分の考えを明確にしているよう助言する。
【観点2－②】	「感じシート」を参考に自分の考えにより近い言葉を探し出すよう助言する。
【観点4－①】	学習した内容を確認し、記述する視点を明確にし、その視点を意識して記述するよう助言する。

(4) 展開

時間	ねらい 学習活動	具体の評価規準 との関連	○留意事項 ☆評価	資料 教具
導入 5	<p>1 前時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色と速度について学習したことを確認する。 <p>2 課題をつかむ。</p>			
	<p>音色、速度、(旋律) をもとに お囃子のよさを紹介文に書こう</p>			
	<p>授業の視点① 指導目標や指導内容の明確化・焦点化を図り、単位時間ごとに身に付けさせる音楽的な力を明らかにする。</p>			
展開 35	<p>3 旋律について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つのお囃子の旋律の特徴をとらえる。 	<p>観点1－② 観点2－②</p>	<p>○笛の旋律を聴き、特徴をとらえる。</p> <p>○学習シートにまとめさせ、グループで交流して深めさせる。</p> <p>授業の視点② 音楽のよさや美しさをより深く味わうことができるように、自己評価やグループ学習を位置づける。</p> <p>☆学習シート、生徒の発言内容</p>	MD 学習シート

生徒の反応予想例及び歴史的・地域的な背景

	日高囃子	神田囃子	京都祇園囃子
音色	〈知覚〉 「笛，太鼓，三味線の音色。」 「旋律×2，打×1。」	〈知覚〉 「笛，太鼓，鉦の音色。」 「旋律×1，打×2。」	〈知覚〉 「笛，太鼓，鉦の音色。」 「旋律×1，打×2。」
	〈感受〉 「格式高さが増す。」「雅さが増す。」「おしとやか。」	〈感受〉 「華やかさが増す。」「元気な感じ。」「活気がある。」	〈感受〉 「華やかさが増す。」「明るい雰囲気が出る。」
速度	〈知覚〉 「遅い」	〈知覚〉 「速い」	〈知覚〉 「遅い」
	〈感受〉 「格式高さが増す。」「雅さが増す。」「おしとやか。」	〈感受〉 「華やかさが増す。」「元気な感じ。」「活気がある。」	〈感受〉 「格式高さが増す。」「雅さが増す。」「おしとやか。」
構成	〈知覚〉 「同じ旋律やリズムを繰り返している。」「4分音符や8分音符などのシンプルなリズム。」「シンプルな旋律とリズムでとりやすい。」「曲の中での変化はそれほどない。」	〈知覚〉 「はねるリズム（付点）が多く使われる。」「複雑で混み合ったリズム。」「同じ旋律を繰り返すが，笛の旋律が複雑でとりづらい。」「曲想が途中で変化する。」	〈知覚〉 「笛は単純なリズムと旋律を繰り返す。」「鉦のリズムが特徴的（コンチキチン）」「変化はそれほどなく，淡々と進む。」
	〈感受〉 「格式高さが増す。」「雅さが増す。」「おしとやか。」	〈感受〉 「華やかさが増す。」「元気な感じ。」「活気がある。」	〈感受〉 「格式高さが増す。」「雅さが増す。」「おしとやか。」
歴史背景	3百有余年の歴史を持つ。江戸の大火事を目撃した水沢城主宗景公が，火災の恐ろしさを肝に銘じ，任を終えて水沢に戻り，日高妙見社と瑞山神社に祈願したのがはじまりである。 その後，町家が栄えるにつれて各町が競い合った結果，今の美しいはやし屋台となった。	14世紀に江戸に疫病が流行したおり，悪病追放の目的で今の様式ができた。 慶長5年，神田祭の最中に徳川家康が関ヶ原の合戦に勝利をおさめたことで，吉事の祭りとなされるようになった。 江戸時代流行していた神楽と影響し合って洗練され，粋で技巧的な曲となった。	平安時代の869年に全国に疫病が流行し，これを牛頭天皇の祟りとして，神輿を奉じて神泉苑に集まり除疫を祈ったのが始まり。 応仁の乱で一時的に中断の後，江戸時代に復活し，豪華な飾り付けなどの華やかな祭りとなった。
気質	我々の気質は？	活気あふれる新興都市江戸の気質	数百年の伝統ある京の気質